



エネルギーモニタリングシステム設計・導入他業務委託契約 の変更について

会場整備局 エネルギー部

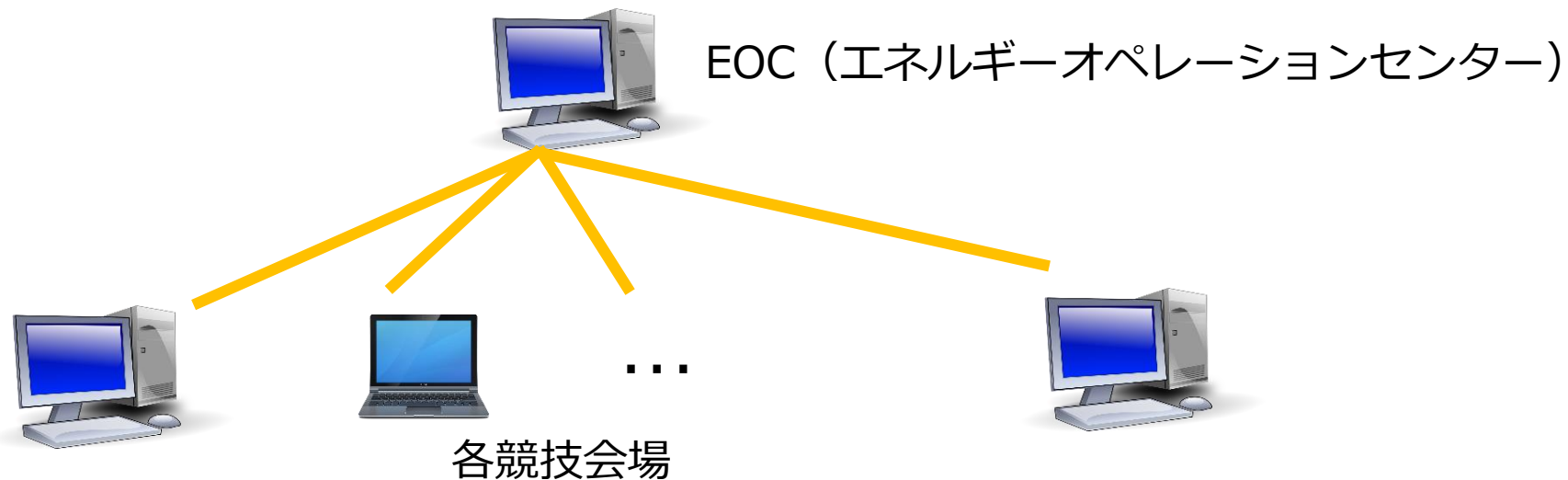
2021年7月14日

1. 概要

EOC（エネルギーオペレーションセンター）及び競技会場における、大会時の電力状態等をモニタリングするシステムについて、システムの設計、導入、保守サポートにかかわる業務を発注する。

IOC要件に基づく、電力モニタリングシステムの役割

- ①大会時における停電や故障等の情報をEOC及び競技会場においてモニタリングする
- ②知識継承のため、電力等の各データを保存する



2. 予算と既契約内容

V5予算内

GEと特別契約（EMS設計・導入・保守サポート）

内訳・EMSの基本ソフトウェア

- ・システム設計、導入
- ・接続テスト
- ・運用時の保守サポート
- ・ドキュメント作成と報告

予定契約期間：2019年11月～2021年10月

3. 今回契約変更の概要

- 大会中に仮設電気設備の運転状況の遠隔監視を行うエネルギーモニタリングシステム(以降ではEMSと呼ぶ)の設計・開発・導入の業務委託契約をG Eと締結しており、2020年3月末時点での仮設電源設計(イタレーション4：大会が延期になる前の最終バージョン)に基づく、システム開発まで完了している(会場へのシステム設置は6-7月に実施予定)。
- 大会延期後の大会簡素化の取り組みにより、仮設電源の設計変更が実施され、大幅なコストダウンが実現されたが、一方でEMSのモニタリング対象の仮設電源機器(配電盤, ATS等)の構成が変更になり、最終的な構成(仮設電源設計のバージョン：イタレーション5.1)が確定したのは5月初旬となった。
- EMSは、電源機器の構成を示す画面上に各機器の状態を表示するシステムである為、最終的な仮設電源機器の構成に対応するように、全モニタリング対象会場(35会場分)に関して、システム修正(機器構成を示す画面、異常個所の判定ロジック等)が必要となる。
- 今回の追加費用は、大会簡素化の取り組みによる仮設電源設計の追加費用の場合と同様に、大会延期に伴う追加経費となる。

本件は、このシステム修正による追加費用の発生に伴う契約変更を行うものである。